



[文化・芸術のまち京都]

歴 2-30 (R03)

九州八代から宇治まで、黄檗宗開祖隠元のお供をした太田勘兵衛が、江戸時代初期（1681）に一切経を刷るために、鉄眼禅師が開かれた京都木屋町二条の一切経印房、すなわち貝葉堂で木版手摺刷りを始めたのが店の始まりです。明治22年、鉄眼版だけでなく、他の版木も買い集め、貝葉書院を開業しました。一切経とは、仏教の典籍を集成したもので、重要文化財の一切経を刷ることが出来るのは全国で唯一、貝葉書院だけです。

二条通木屋町通を西に入った通り沿いに建つ主屋は、明治5年に建てられたものです。切妻平入りの木造2階建てで、1階には、店土間、店の間が並び、その東側に玄関土間、食堂、台所が続き、西側は玄関と箱階段、居間と奥座敷、その奥に縁側があります。

玄関土間の壁は真壁の漆喰壁が残され、上部は小屋組あらわしで屋根には天窓が付き光を取り込んでいます。玄関は大和天井、漆喰仕上げの真壁、箱階段が残り、縁側は天井を化粧軒裏とし、6枚引きのガラス戸を建て、縁桁にはガラス障子の欄間が付いています。

祇園祭神幸祭のルート上にあり、100年程前から平成25年までは、祭の夕方に八坂神社から出る3つの神輿のうち中御座神輿の休憩場としても使われ、宮司さんやお稚児さんに長年利用されてきました。



店の間



祇園祭神幸祭（平成21年頃）

貝葉書院

〒604-0912 京都市中京区二条通木屋町西入

電話番号 075-231-0919

F A X 075-223-5829

アクセス 地下鉄東西線「京都市役所前駅」徒歩2分

ホームページ <http://www.baiyousho.in.com/>